

1. 日本動物遺伝育種学会第26回大会（第一日目）

日 時 2025 年 11 月 29 日 土曜日

場 所 十文字学園女子大学 新座キャンパス

講演会場 4 号棟 3 階 431 教室

ポスター・研究交流会会場 7 号館 1 階 カフェテリア

ランチョンセミナー 4 号棟 2 階 422 教室

総合受付 4 号棟 3 階 431 教室前

- 1) 受付開始 8:00 ~
- 2) ポスター貼り付け 8:30 ~ 9:00
- 3) 大会長挨拶 8:57 ~ 9:00
- 4) 口頭発表 1 9:00 ~ 11:34

特別賞選考対象演題 (S)

- 5) ポスター閲覧 9:00 ~ 18:20
- 6) ランチョンセミナー 11:40 ~ 12:40

株式会社ニッポンジーン： 牛伝染性リンパ腫対策の新技术に迫る！

- 7) 口頭発表 2 12:45 ~ 14:55

一般演題 (I ~ II)

- 8) 総会 14:55 ~ 15:45
- 9) 口頭発表 3 15:45 ~ 17:46

一般演題 (III ~ IV)

- 10) ポスター発表 (個別質疑) 17:50 ~ 18:20
- 11) 特別賞審査委員会 17:50 ~ 18:20
- 12) 閉会挨拶 18:20 ~ 18:25
- 13) 研究交流会 特別賞発表および授与式 18:25 ~ 19:55

2. 日本動物遺伝育種学会シンポジウム（第二日目）

テーマ：匂いと生命システム 座長：(会長) 横井 伯英、(大会長) 竹嶋 伸之輔

日 時：2025 年 11 月 30 日 日曜日 9:00 ~ 12:30

場 所：十文字学園女子大学 4 号棟 3 階 431 教室

講 演：(1) 「多様な嗅覚行動をつかさどる分子・細胞・回路メカニズム」

吉原 良浩 (理化学研究所 脳神経科学研究センター

・システム分子行動学研究チーム)

講 演：(2) 「匂いがつくる脳と身体のリズム

～脳機能画像と活動量から見た香りの作用～」

小長井 ちづる (十文字学園女子大学

人間生活学部 健康栄養学科)

講演：(3)「様々な匂いの感知を可能にする嗅細胞の多様性創出の分子基盤」

廣田 順二（東京科学大学

バイオサイエンスセンター・生命理工学院）

総合討論

3. 会場

十文字学園女子大学 新座キャンパス 〒 352-8510 埼玉県新座市菅沢 2-1-28

講演会場	4 号棟 3 階	431 教室
ポスター会場	7 号館 1 階	カフェテリア
ランチョンセミナー	4 号棟 2 階	422 教室
懇親会	7 号館 1 階	カフェテリア
総合受付	4 号棟 3 階	431 教室前

4. 連絡先

十文字学園女子大学 人間生活学部 食物栄養学科

事務局 竹嶋 伸之輔

〒 352-0017 埼玉県新座市菅沢 2 丁目 1 - 2 8 十文字学園女子大学 3 号 3 階 336 室

TEL：048-477-0555（内線 365）；E-Mail：jsabg26@jumonji-u.ac.jp

FAX：048-478-9367

5. 総合受付

(1) 参加費

1) 大会参加費

普通会員	事前	5,000 円	当日	6,000 円
学生会員	事前	2,000 円	当日	3,000 円
非会員	事前	6,000 円	当日	7,000 円

2) 研究交流会参加費

一般	4,000 円	学生	1,000 円
----	---------	----	---------

3) 前納締切

2024 年 11 月 14 日（金）

4) 参加申込

大会事務局までメールにて講演要旨（Word ファイル）をお送りください。

（送り先：jsabg26@jumonji-u.ac.jp）

振込先

銀行名：三井住友銀行
店番号：牛久支店（012）
口座種別：普通預金
口座番号：4491043

口座名：日本動物遺伝育種学会

(2) 参加証・抄録集

参加証・抄録集は当日配布します。

6. クローク

クロークは設置しませんので、自分の荷物は責任を持って管理してください。

7. 発表者へのご案内

本大会の発表は一つの演題につき、口演発表 + ポスター発表の両方でご発表いただきます。

【口演発表】

- (1) 一般演題口演発表は発表 6 分 個別質疑 2 分です。発表ファイルは事前にお送りするメール記載の URL よりアップロードを 11 月 27 日 (木) 18 時 00 分 締切でお願い致します。作成はパワーポイントもしくは PDF にてお願いいたします。
- (2) 特別賞選考対象演題については、発表 6 分 個別質疑 2 分です。発表ファイルは事前にお送りするメール記載の URL よりアップロードを 11 月 27 日 (木) 18 時 00 分 締切でお願い致します。作成はパワーポイントもしくは PDF にてお願いいたします。

【ポスター発表】

ポスター発表は A0 サイズ (幅 841mm × 高さ 1,189mm) 以内で作成し当日持参してください。貼り付け時刻は 8:30 ~ 9:00 です。撤去は翌日のシンポジウムにご参加の方は翌日撤去いただけます。シンポジウムに参加なさらない方は、当日の撤去をお願いいたします。

ポスターについては、フリーディスカッションを 17 時 50 分より予定しております。ポスター前にて待機をお願いいたします。

貼 付： 8:30 ~ 9:00

閲 覧： 9:00 ~ 18:20

個別質問： 17:50 ~ 18:20

8. 理事会の開催

日 時 2025 年 11 月 28 日 金曜日 16:00 ~ 18:00

場 所 十文字学園女子大学 巣鴨サテライトキャンパス (十文字中学・高等学校内)

〒 170-0004 東京都豊島区北大塚 1 丁目 10-33

9. 大会運営組織

第 26 回大会実行委員会

大会長：竹嶋 伸之輔 (十文字学園女子大学)

副大会長：間 陽子 (東京大学)、飯村 九林 (十文字学園女子大学)

実行委員長：松浦 遼介 (東京大学)、副実行委員長：永田 文宏 (東京大学)

10. 交通案内

(1) 理事会会場： 巣鴨サテライトキャンパス

〒170-0004 東京都豊島区北大塚1丁目10-33 十文字中学・高等学校内
最寄りの駅は4駅から利用でき、どの駅からも徒歩で約5分で到着します。

JR 山手線 大塚駅（北口より）－徒歩5分

JR 山手線 巣鴨駅（正面口より）－徒歩5分

都営三田線 巣鴨駅（A2出口より）－徒歩5分

都電荒川線 大塚駅前駅－徒歩5分



(2) 日本動物遺伝育種学会第26回大会・シンポジウム会場

〒352-8510 埼玉県新座市菅沢2-1-28

十文字学園女子大学へは、JR 武蔵野線「新座駅」で下車してください。

電車をご利用の方へ

時間帯によって最適な経路は異なります。ご出発前に路線検索アプリなどで最新の運行状況や所要時間を必ずご確認ください。

1. 東京駅から

経路	乗り換え	備考
武蔵野線	なし	直通の武蔵野線がありますが、時間がかかります。
中央線快速 → 京浜東北線 → 武蔵野線	赤羽駅、南浦和駅	中央線快速で赤羽駅へ。京浜東北線に乗り換え南浦和駅へ。武蔵野線に乗り換え新座駅へ。
京浜東北線 → 武蔵野線	南浦和駅	京浜東北線で南浦和駅へ。武蔵野線に乗り換え新座駅へ。
中央線 → 武蔵野線	西国分寺駅	中央線で西国分寺駅へ。武蔵野線に乗り換え新座駅へ。
池袋駅 → 東武東上線 → 徒歩 → 武蔵野線	池袋駅、朝霞台駅 / 北朝霞駅	JR で池袋駅へ。東武東上線に乗り換え朝霞台駅へ。北朝霞駅まで徒歩で移動し、武蔵野線に乗り換え新座駅へ。朝霞台と北朝霞駅はとても近いです。

2. 大宮駅から

経路	乗り換え	備考
武蔵野線	なし	「むさし野号」など、新座駅まで直通する武蔵野線が数本運行しています。
京浜東北線 → 武蔵野線	南浦和駅	京浜東北線で南浦和駅へ。武蔵野線に乗り換え新座駅へ。
埼京線快速 → 武蔵野線	武蔵浦和駅	埼京線快速で武蔵浦和駅へ。武蔵野線に乗り換え新座駅へ。

3. 羽田空港から

経路	乗り換え	備考
電車：京急線 → 京浜東北線 → 武蔵野線	品川駅（または泉岳寺駅）、南浦和駅	京急空港線特急で品川駅へ。京浜東北線に乗り換え南浦和駅へ。武蔵野線に乗り換え新座駅へ。
電車：京急線 → 山手線 → 埼京線 → 武蔵野線	品川駅、新宿駅、武蔵浦和駅	京急空港線特急で品川駅へ。山手線に乗り換え新宿駅へ。埼京線に乗り換え武蔵浦和駅へ。武蔵野線に乗り換え新座駅へ。
リムジンバス（所沢線） → 武蔵野線	東所沢駅	エアポートリムジン（所沢・羽田空港線）を利用し、東所沢駅で降車後、武蔵野線に乗り換え新座駅へ。
リムジンバス（浦和線） → 武蔵野線	武蔵浦和駅	エアポートリムジン（浦和・羽田空港線）を利用し、武蔵浦和駅西口で降車後、武蔵野線に乗り換え新座駅へ。

最寄り駅からのアクセス

JR 武蔵野線「新座駅」下車後、徒歩で約 8 分です。



新座駅から十文字学園女子大学まで



1 1. 会場案内

7号館1階カフェテリア

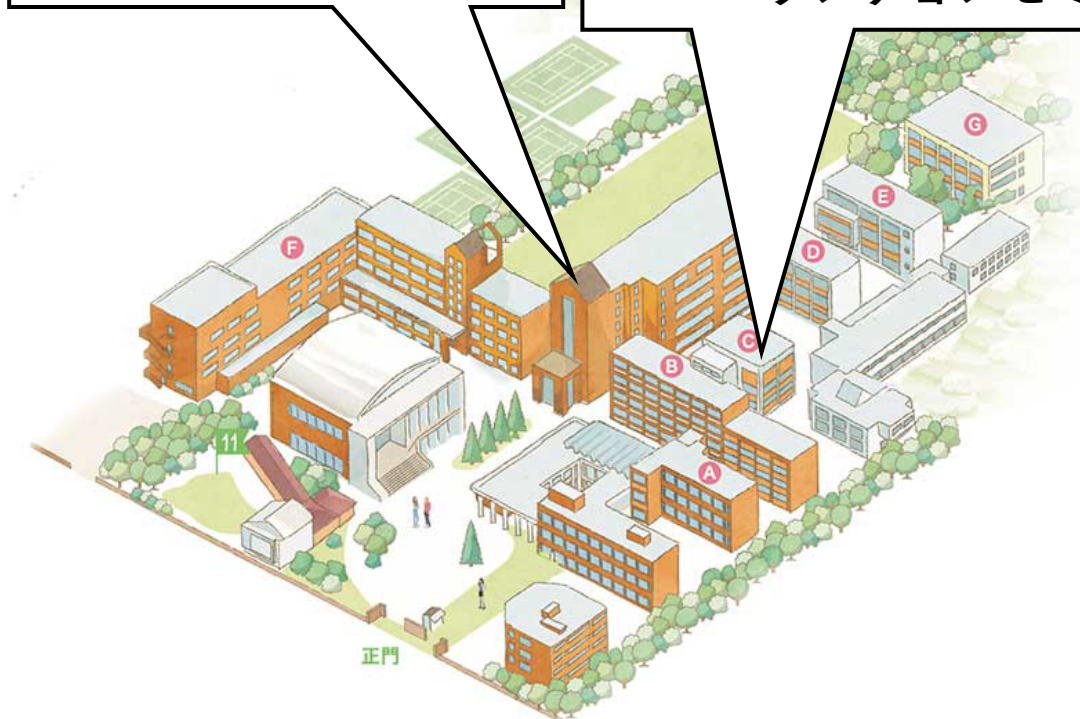
- ・ポスター会場
- ・研究交流会
- ・企業展示
- ・休憩スペース

4号棟3階：431室

- ・講演会場
- ・総合受付

4号棟2階：422室

- ・ランチョンセミナー



プログラム

シンポジウム

匂いと生命システム

11月30日(日)9:00～12:30

十文字学園女子大学 4号棟3階431教室

座長：横井 伯英（京都大学）竹嶋 伸之輔（十文字学園女子大学）

講演（1）多様な嗅覚行動をつかさどる分子・細胞・回路メカニズム 9:05～10:05
吉原 良浩（理化学研究所 脳神経科学研究センター・システム分子行動学研究チーム）

講演（2）匂いがつくる脳と身体のリズム ～脳機能画像と活動量から見た香りの作用～ 10:10～11:10
小長井 ちづる（十文字学園女子大学 人間生活学部 健康栄養学科）

講演（3）様々な匂いの感知を可能にする嗅細胞の多様性創出の分子基盤 11:15～12:15
廣田 順二（東京科学大学 バイオサイエンスセンター・生命理工学院）

総合討論 12:15～12:30

ランチョンセミナー 牛伝染性リンパ腫対策の新技术に迫る！

11月29日(土)11:40～12:40

十文字学園女子大学 4号棟2階422教室

座長：大上 光明（株式会社ニッポンジーン）

（1）株式会社ニッポンジーンの会社、製品紹介
大上 光明（株式会社ニッポンジーン）

- （2）牛伝染性リンパ腫対策の新技术に迫る！
- （i）新規牛伝染性リンパ腫発症予測診断技術の確立とそれが拓く未来
間 陽子（東京大学大学院農学生命科学研究科）
 - （ii）牛伝染性リンパ腫ウイルス定量法 BLV-CoCoMo qPCR 法の新展開
綿貫 園子（東京大学大学院農学生命科学研究科）

提供・共催：株式会社ニッポンジーン

口頭発表

- | | | |
|-------------------------|-----------------------------|-------------------|
| (1) 特別賞選考対象演題の口頭発表 (S) | 11 月 29 日 (土) 9:00 ~ 11:34 | (4 号棟 3 階 431 教室) |
| (2) 一般演題口頭発表 (I ~ II) | 11 月 29 日 (土) 12:45 ~ 14:55 | (4 号棟 3 階 431 教室) |
| (3) 一般演題口頭発表 (III ~ IV) | 11 月 29 日 (土) 15:45 ~ 17:46 | (4 号棟 3 階 431 教室) |
| (4) ポスター発表 (個別質疑) | 11 月 29 日 (土) 17:50 ~ 18:20 | (7 号館 1 階・カフェテリア) |

(1) 特別賞選考対象演題の口頭発表

9:00 ~ 10:12 座長：笹崎晋史（神戸大学）、福井えみ子（宇都宮大学）

S-01 黒毛和種体外受精胚の割球分離方法の違いが胚全ゲノム増幅産物を用いた着床前遺伝子検査の評価精度に及ぼす影響

○福澤陽生（家畜改良センター）、吉岡 一（家畜改良センター）、竹田将悠規（家畜改良センター）、阿部 剛（家畜改良センター）

S-02 黒毛和種牛の骨格筋由来脂肪前駆細胞の分取および脂肪細胞への分化誘導手法の検討

○各務里彩（京大院農）、Hiba Javaid（京大院農）、稲垣翔太（京大院農）、渡邊りお（京大院農）、平野亘（京大院農）、小川伸一郎（京大院農）、横井伯英（京大院農）

S-03 全ゲノムリシーケンスデータを利用したウシ脂肪酸組成に関わる “High” impact SNP の網羅的探索

○中橋洸稀（神戸大院農）、川口美岐（神戸大院農）、万年英之（神戸大院農）、笹崎晋史（神戸大院農）

S-04 First comparative analysis of bovine leukemia virus prevalence, proviral load, and *BoLA-DRB3* allele distribution in China and Japan

○王靖源（東大院農）、松浦遼介（東大院農）、綿貫園子（東大院農）、Aronggaowa Bao（東大院農）、Rania Hamada（東大院農）、山田剛史（東大院農）、福士法子（東大院農）、Samy Metwally（東大院農）、曲光剛（中国濱兽研）、王长江（中国濱兽研）、王金良（中国濱兽研）、王学波（绿都生物）、沈志强（绿都生物）、董林（濱兽研）、間陽子（東大院農）

S-05 黒毛和種における産肉性に関わる遺伝子多型および肥育中期の VA 制限と体重推移および肉質等級との関連性

○吉田桃菜（宇都宮大院地域創生科学）、江連穰（栃木県畜産酪農研究センター）、永井友香理（栃木県畜産酪農研究センター）、星一美（栃木県畜産酪農研究センター）、松本浩道（宇都宮大農）、福井えみ子（宇都宮大農）

S-06 黒毛和種におけるロバートソン転座保有状況の調査

○高野樹（岡山大院環境生命自然科学）、田中和明（麻布大学獣医学部）、長江麻佑子（岡山大院環境生命自然科学）辻岳人（岡山大院環境生命自然科学）

S-07 *PMEL* p.L18del をモデルとした LAMP 法による新たな遺伝子型判定法開発の試み

○山下泰斗（東海大院農）、樂満未来（東海大農）、久保和弘（東海大フェニックスカレッジ熊本オフィス）、山中猛（東海大フェニックスカレッジ熊本オフィス）、松本大和（東海大農）

S-08 ベトナム水牛 *MTNR1A* 遺伝子変異を導入した野生由来マウス系統における雌性生殖機能の解析
○長江麻佑子(岡山大院環境生命自然)、Nguyen Thanh Thuy(岡山大院環境生命自然、
Faculty of Animal Sciences and Veterinary Medicine, University of Agriculture and Forestry, Hue
University)、松崎瀬奈(名古屋大院生命農)、上野山賀久(名古屋大院生命農)、辻岳人(岡山大院環境生
命自然)

S-09 QTL-seq 法による合成系統豚トウキョウ X のメラノーマ発症関連領域の探索
○大栗宙(東農大院農)、高橋剛(東農大農)、高橋幸水(東農大農)、平間俊吾(東京都青梅畜産セ)、
松本徹郎(東京都青梅畜産セ)、桂川ゆきの(東京都青梅畜産セ)、山田真菜(東京都青梅畜産セ)、
塗本雅信(家畜改良事業団)、伊藤智仁(家畜改良事業団)、荻野敦(家畜改良事業団)、
島貫伸一(家畜改良事業団)、田原岳(家畜改良事業団)、古川力(東農大院農)、
小林栄治(農研機構畜産部門)、野村こう(東農大農)

10:14 ~ 11:34 座長: 下桐猛(鹿児島大学)、野村こう(東京農業大学)

S-10 コウベモグラ(*Mogera kobeeae*) の繁殖管理に向けた分子的性判別法の開発
○李 受恩(東海大農)、益田すう(東海大農)、今井早希(東海大農)、佐藤佑介(東海大農)、檉村 敦(東
海大農)、松本大和(東海大農)

S-11 魚類の鱗に対する紫外線の影響解析
○小西むつ望(十文字学園女子大)、飯村九林(十文字学園女子大)

S-12 マルチバレントな抗ウイルス薬探索のためのヒトコロナウイルスおよびインフルエンザウイルス
を用いたラパマイシン標的タンパク質複合体 1 の阻害効果の検証試験
○山田剛史(東大院農)、松浦遼介(東大院農)、綿貫園子(東大院農)、松本安喜(東大院農)、
萩原恭二(理研 CSRS)、宮武秀行(理研 BSI)、間陽子(東大院農)

S-13 mtDNA と *SRY* 遺伝子配列を用いたモーリシャス在来ヤギの遺伝構造と伝播経路の推定
○中谷百花(神戸大院農)、増子諒(神戸大院農)、笹崎晋史(神戸大院農)、川口美岐(神戸大院農)、
山本義雄(広島大院統合生命)、下桐猛(鹿児島大共同獣医)、Gobindram NE(モーリシャス FAREI)、
万年英之(神戸大院農)

S-14 遅発性芦毛の検査法開発および日本サラブレッド集団における調査
○川手皓貴(競走馬理化学研究所)、古川梨紗子(競走馬理化学研究所)、菊地美緒(競走馬理化学研究所)、
石毛太郎(競走馬理化学研究所)、戸崎晃明(競走馬理化学研究所)、梶裕永(競走馬理化学研究所)

S-15 Characterization of hypervariable *PRDM9* gene in Mongolian and Japanese native horses
○ Onontuul Ganbaatar (Okayama University, Mongolian University of Life Sciences), Le Nu Anh
Thu (Okayama University of Science, Hue University), Liushiqi Borjigin (Okayama University of
Science), Okuda Yu (Okayama University of Science), Saipolda Togtorbay (Mongolian University of
Life Sciences), Rentsenkhand Jargalsaikhan (Mongolian University of Life Sciences), Enkhmanlai
Ganbaatar (Mongolian University of Life Sciences), Badamsuren Batsukh (Mongolian University of Life
Sciences), Khosbagana Tumurbaatar (Research Institute of Animal Husbandry, Mongolia), Takehito
Tsuji (Okayama University), Tetsuo Kunieda (Okayama University)

S-16 PLINK と COLONY を用いた閉鎖集団であるトカラ馬中之島分集団の親子判定
○吉原知子(鹿児島大学共同獣医学部)、石毛太郎(競走馬理化学研究所)、山下紀幸(鹿児島大学共

同獣医学部)、畠添孝(鹿児島大学共同獣医学部)、三角一浩(鹿児島大学共同獣医学部)、川手皓貴(競走馬理化学研究所)、菊地美緒(競走馬理化学研究所)、古川梨紗子(競走馬理化学研究所)、戸崎晃明(競走馬理化学研究所)、梶裕永(競走馬理化学研究所)、帆保誠二(鹿児島大学共同獣医学部)

S-17 日本鶏 4 品種の初期成長における品種差および性差

○西田 悠真(帯畜大畜産)、岡田 優明(帯畜大畜産)、Dipson Gyawali(帯畜大畜産)、後藤 達彦(帯畜大畜産)

S-18 日本鶏の骨格形質における品種差

○岡田 優明(帯畜大畜産)、Dipson Gyawali(帯畜大畜産)、西田 悠真(帯畜大畜産)、Ogunwale Emmanuel Tope(帯畜大畜産)、近藤 大輔(帯畜大獣医)、岩崎 遼太(帯畜大獣医)、後藤 達彦(帯畜大畜産)

S-19 集団ゲノム解析による琉球在来鶏の起源と歴史の解明

○藤原篤弥(広島大学生物生産学部)、高田勝(農業生産法人有限会社今帰仁アグー)、西堀正英(広島大学生物生産学部)、呉佳斎(広島大学生物生産学部)、米澤隆弘(広島大学生物生産学部)

(2) 一般演題口頭発表 (I ~ II)

I ゲノム情報と複雑形質解析による経済形質の育種戦略

12:45 ~ 13:50 座長: 谷口雅章(農業・食品産業技術総合研究機構)、米澤隆弘(広島大学)

I-01 血統情報を用いた基礎世代における SNP アレル頻度推定に関する検討:

黒毛和種雌牛の一集団を例に

○小川 伸一郎(京大院農)、造田 篤(JA 全農 ET 研)、香川 梨乃(JA 全農 ET 研)、白澤 篤(JA 全農 ET 研)、谷 政秀(JA 全農 ET 研)、横井 伯英(京大院農)

I-02 ゲノムワイド SNP データに基づく広島和牛集団の遺伝的特徴と時代的変遷について

○今井佳積(広島県総合技術研究所 畜産技術センター、広島大学大学院 統合生命科学研究科)、呉佳斎(広島大学大学院 統合生命科学研究科)、柴田愛梨(広島県総合技術研究所 畜産技術センター)、山根瑞穂(広島県総合技術研究所 畜産技術センター)、竹明日向花(広島県総合技術研究所 畜産技術センター)、日高健雅(広島県総合技術研究所 畜産技術センター)、佐々木慎二(琉球大学 亜熱帯農林環境科学科)、西堀正英(広島大学大学院 統合生命科学研究科)、河野幸雄(広島県総合技術研究所 畜産技術センター)、万年英之(神戸大学大学院 農学研究科)、米澤隆弘(広島大学大学院 統合生命科学研究科)

I-03 豚ランドレース種の繁殖および産肉形質における *FSHR* 遺伝子の一塩基置換効果と選抜に伴う遺伝子型頻度の変化

○松永のどか(家畜改良センター)、門脇宏遠(家畜改良センター)、佐藤優菜(家畜改良センター)、平山裕理(家畜改良センター)、阿部 剛(家畜改良センター)、福澤陽生(家畜改良センター)

I-04 黒毛和種の枝肉重量と歩留に関する局所的遺伝相関を利用したゲノミック評価

○松田洋和(家畜改良事業団)、荻野敦(家畜改良事業団)、渡邊敏夫(家畜改良事業団)、須藤聖映(家畜改良事業団)、黒木一仁(家畜改良事業団)

I-05 北海道黒毛和種牛枝肉における脂肪酸組成の遺伝的パラメータの推定

○鈴木洋美(道総研畜試)、木村聡志(元道総研畜試、現全国和牛登録協会)、大井幹記(道総研畜試)、山本祐介(元北海道酪農畜産協会)、巻口達也(北海道酪農畜産協会)、片山陽介(北海道酪農畜産協会)、岸大輔(北海道酪農畜産協会)、酒井稔史(道総研畜試)

I-06 アンサンブル学習を用いたルーメン細菌叢からのメタン排出量予測

石橋朋大（龍谷大農）、〇小野木章雄（龍谷大農）

I-07 無限分裂ウシ顆粒層細胞の樹立

〇白らんらん（岩手大農）、高橋美波（宮城大学食産）、小林仁（宮城大学食産）、永塚貴弘（東北大院農）、松坂ひまり（岩手大理工）、尾崎拓（岩手大農）、菅野江里子（岩手大農）、富田浩史（岩手大農）、清野透（佐々木研究所、国立がん研究センター）、徐遇安（順天堂大院医学）、河村和弘（順天堂大院医学）、仲川清隆（東北大院農）、福田智一（岩手大農）

I-08 Establishment of three bovine leukemia virus (BLV) stably-infected human cell lines demonstrating viral latency and silencing

〇 Samy Metwally (Laboratory of Global Infectious Diseases Control Science, Grad. Sch. Agricul. Life Sci., Univ. Tokyo, Japan, Department of Infectious Diseases & Epidemics, Damanhour University, Egypt), Yoko Aida (Laboratory of Global Infectious Diseases Control Science, Grad. Sch. Agricul. Life Sci., Univ. Tokyo, Japan)

II 在来品種の保全と持続的利用：遺伝的多様性・進化史・環境適応

13:50 ~ 14:55 座長：戸崎晃明（競走馬理化学研究所）、後藤達彦（帯広畜産大学）

II-01 Morphometric evaluation of indigenous naked neck, full feathered and frizzle chickens from Bangladesh

〇 Mohammad Aminul Islam (Department of Dairy and Poultry Science, Gazipur Agricultural University, Gazipur-1706, Bangladesh, Graduate School of integrated Science for Life, Hiroshima University, 1-4-4 Kagamiyama, Higashi-hiroshima 739-8528, Japan), Masahide Nishibori (Graduate School of integrated Science for Life, Hiroshima University, 1-4-4 Kagamiyama, Higashi-hiroshima 739-8528, Japan)

II-02 Population Genetic Study for Unraveling Evolutionary History and Morphological Traits of Bangladesh Native Chicken

〇 Md Altafur RAHMAN¹, Masahide NISHIBORI (Graduate School of Innovation and Practice for Smart Society, Hiroshima University, Higashi-Hiroshima 739-8529, Japan, Graduate School of Integrated Sciences for Life, Hiroshima University, Higashi-Hiroshima 739-8528, Japan), Kazushi MASUDA (Graduate School of Innovation and Practice for Smart Society, Hiroshima University, Higashi-Hiroshima 739-8529, Japan), Md Nazmul HAQUE (Department of Genetics and Animal Breeding, Sylhet Agricultural University, Sylhet-3100, Bangladesh), Mohammad Aminul ISLAM (Department of Dairy and Poultry Science, Gazipur Agricultural University, Gazipur-1706, Bangladesh), Jiaqi WU (Graduate School of Integrated Sciences for Life, Hiroshima University, Higashi-Hiroshima 739-8528, Japan), Takahiro YONEZAWA (Graduate School of Integrated Sciences for Life, Hiroshima University, Higashi-Hiroshima 739-8528, Japan)

II-03 Genetic characterization of Mongolian native horse using the Myostatin (*MSTN*) gene

〇 Rentsenkhand Jargalsaikhan (Mongolian University of Life Sciences), Liushiqi Borjigin (Okayama University of Science), Okuda Yu (Okayama University of Science), Shimura Yusuke (Okayama University of Science), Onontuul Ganbaatar (Okayama University, Mongolian University of Life Sciences), Saipolda Togtorbay (Mongolian University of Life Sciences), Enkhmanlai Ganbaatar

(Mongolian University of Life Sciences), Badamsuren Batsukh (Mongolian University of Life Sciences), Khosbagana Tumurbaatar (Research Institute of Animal Husbandry, Mongolia), Nurmuhamed Burshahbay (Research Institute of Animal Husbandry, Mongolia), Urjin Battulga (Mongolian University of Life Sciences), Sanjdorj Khishigt (Mongolian University of Life Sciences), Tetsuo Kunieda (Okayama University)

II-04 モンゴル在来馬の毛色に関する遺伝学的研究

○陸拾七（岡理大・獣医）奥田ゆう（岡理大・獣医）、村井将樹（岡理大・獣医）、Ganbaatar Onontuul（岡大院・環生、モンゴル生命科学大・畜産）、Togtorbay Saipolda（モンゴル生命科学大・畜産）、Jargalsaikhan Rentsenkhand（モンゴル生命科学大・畜産）、Ganbaatar Enkhmanlai（モンゴル生命科学大・畜産）、Batsukh Badamsuren（モンゴル生命科学大・畜産）、Tumurbaatar Khosbagana（モンゴル畜産研）、Burshakhbay Nurmuhamed（モンゴル畜産研）、Battulga Urjin（モンゴル生命科学大・獣医）、Khishigt Sanjdorj（モンゴル生命科学大・畜産）、国枝哲夫（岡大院・環生）

II-05 日本鶏 4 品種が示す従順性行動の多様性

○後藤達彦（帯畜大）、Prudence Nyirimana（帯畜大）、Dipson Gyawali（帯畜大）、佐々木凌玖（帯畜大）、Emmanuel Tope Ogunwale（帯畜大）

II-06 北海道和種馬の毛色と関わる SNP のゲノムワイドな探索 —とくに粕毛形質に着目して—

○田中陸（酪農大）、河合正人（北大 FSC）、白井興一（北海道和種馬保存協会）、天野朋子（酪農大）

II-07 対州馬集団を特徴づける SNP マーカーの同定に向けて

○石毛太郎（競走馬理化学研究所）、吉原知子（鹿児島大学共同獣医学部）、川手皓貴（競走馬理化学研究所）、菊地美緒（競走馬理化学研究所）、古川梨紗子（競走馬理化学研究所）、戸崎晃明（競走馬理化学研究所）、梶裕永（競走馬理化学研究所）

II-08 ラオス在来牛における飢餓環境適応遺伝子の探索

○八木田颯汰（東農大院農）、高橋剛（東農大農）、高橋幸水（東農大農）、小林栄治（農研機構畜産）、天野卓（東農大）、野村こう（東農大農）

(3) 一般演題口頭発表 (III ~ IV)

III ウイルスの宿主遺伝学と遺伝性疾患の分子病態

15:45 ~ 16:50 座長：松本大和（東海大学）、白らんらん（岩手大学）

III-01 *BoLA-DRB3* Polymorphism Associated with Bovine Leukemia Virus Infection and Proviral Load in Cattle Breeds in Egypt

○Rania Hamada（東大院農、Damanhour 大学）、Samy Metwally（東大院農、Damanhour 大学）、松浦遼介（東大院農）、Liushiqi Borjigin（理研）、Chieh-Wen Lo（東大院農）、Alsagher Ali（South valley 大学）、Adel Elsayed（South valley 大学）、竹嶋伸之輔（十文字学園女子大）、和田智之（理研）、間陽子（東大院農）

III-02 精液およびその後代を用いた PVL 上昇関連 SNP による発症リスク評価

○包阿荣高娃（東大院農）、叶穎宝（東大院農）、綿貫園子（東大院農）、永田文宏（東大院農）、松浦遼介（東大院農）、松本安喜（東大院農）、庭野あゆは（川田獣医科医院）、川田隆作（川田獣医科医院）、間陽子（東大院農）

III-03 品種に基づく牛伝染性リンパ腫ウイルスの感染状況と疾患感受性の全国調査

○松浦遼介（東大農院）、王靖源（東大農院）、福士法子（東大農院）、綿貫園子（東大農院）、
Bao Arrongaowa（東大農院）、山田剛史（東大農院）、Rania Hamada（東大農院）、
松本安喜（東大農院）、小原潤子（北海道立総合研究機構 畜産試験場）、鈴木康則（農工大農院）、
前澤誠希（東大農院）、Bai Lanlan、（岩手大農院）、間陽子（東大農院）

**III-04 BoLA 領域のターゲットリシーケンス法による牛伝染性リンパ腫のプロウイルス量を制御する
マーカーの探索**

○永田文宏（東大院農）、Chieh-wen Lo（東大院農）、斎藤督（東大院農）、綿貫園子（東大院農）、
松浦遼介（東大院農）、松本安喜（東大院農）、細道一善（東京薬科大学）、佐々木慎二（琉球大学）、
竹嶋伸之輔（十文字学園女子大学）、間陽子（東大院農）

III-05 骨形成不全症が疑われる黒毛和種新生子牛について遺伝的変異検出の試み

○田原岳（家畜改良事業団 家畜改良技術研究所）、宮崎義之（家畜改良事業団 家畜改良技術研究所）、
佐々木彩乃（北里大学獣医学部 附属動物病院）、前田洋佑（北里大学獣医学部 附属動物病院）、
荻野敦（家畜改良事業団 家畜改良技術研究所）、塗本雅信（家畜改良事業団 家畜改良技術研究所）

**III-06 改良型 BLV-proviral-capture sequencing 法を用いた解析により明らかとなった牛伝染性リンパ
腫ウイルス実験感染牛における牛伝染性リンパ腫ウイルスゲノム配列の特徴**

○福士法子（東大院農）、中土亜由美（東大院農）、綿貫園子（東大院農）、松浦遼介（東大院農）、
包阿榮高娃（東大院農）、松本安喜（東大院農）、岩内陽子（東京薬科大）、細道一善（東京薬科大）、
間陽子（東大院農）

**III-07 牛伝染性リンパ腫ウイルス抵抗性・感受性牛を用いた感染実験の RNA-seq 解析による牛伝染性
リンパ腫発症関連宿主因子の同定**

○綿貫園子（東大院農）、中土亜由美（JA 全農）、包阿榮高娃（東大院農）、相馬順一（JA 全農）、
大角貴幸（JA 全農）、松浦遼介（東大院農）、福田智一（岩手大学）、細道一善（東京薬科大学）、
松本安喜（東大院農）、間陽子（東大院農）

III-08 乳用牛の遺伝的不良形質「BLIRD」と表型成績間の関連

○馬場俊見（日ホ北支局）、後藤裕作（日ホ北支局）、川上純平（日ホ北支局）、岡太郎（日ホ協会）

IV 非家畜種における分子遺伝学的知見の応用と生物モデルの開発

16:50 ~ 17:46 座長：菊池潔（東京大学）、松浦遼介（東京大学）

IV-01 魚類の鱗や鱗様組織の形成機構の解析

○飯村九林（十文字学園女子大学）

IV-02 局所 PCA を利用した魚介類の性決定領域の検出

大森識照（東京大学水産実験所）、喜納泰斗（東京大学水産実験所）、平瀬祥太郎（東京大学水産実験所）、
細谷将（東京大学水産実験所）、○菊池潔（東京大学水産実験所）

IV-03 アユの縄張り形成性における遺伝的パラメータの季節変化

佐藤渉（東北大院農）、山田学（福島内水試）、○中嶋正道（東北大院農）

IV-04 *Foxe3* ハイポモルフにおける白内障を修飾する複数の遺伝子

○石田有輝（東京農業大学大学院・生物産業学研究科）、高橋 諒（東京農業大学大学院・生物産業学研究科）、古郡真宗（東京農業大学大学院・生物産業学研究科）、吉川欣亮（東京都医学総合研究所・先端基礎医科学研究分野）、和田健太（東京農業大学大学院・生物産業学研究科）

IV-05 無眼球ラット、NAK の低体重遺伝子座と病態特性

○落合弘光（東京農業大学大学院・生物産業学研究科）、原 菜摘（東京農業大学大学院・生物産業学研究科）、和田健太（東京農業大学大学院・生物産業学研究科）

IV-06 セイヨウミツバチの衛生行動関連遺伝子座の探索

○端崎 開（東農大院農）、大前 恵吾（東農大院農）、高橋 幸水（東農大農）、高橋 剛（東農大農）、小林 栄治（農研機構畜産部門）、野村 こう（東農大農）

IV-07 西中国山地個体群ツキノワグマの DNA 個体識別および親子鑑定による生態モニタリング

○増田 和志（広島大学大学院スマートソサイエティ実践科学研究院）、廣瀬 雅恵（広島大学大学院統合生命科学研究科）、呉 佳斎（広島大学大学院統合生命科学研究科）、米澤 隆弘（広島大学大学院統合生命科学研究科）、畑瀬 淳（広島市安佐動物公園）、野田亜矢子（広島市安佐動物公園）、西堀 正英（広島大学大学院スマートソサイエティ実践科学研究院、広島大学大学院統合生命科学研究科）

シンポジウム要旨

匂いと生命システム

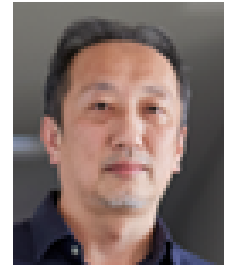
1. 多様な嗅覚行動をつかさどる分子・細胞・回路メカニズム
吉原 良浩（理化学研究所）
2. 匂いがつくる脳と身体のリズム
～脳機能画像と活動量から見た香りの作用～
小長井 ちづる（十文字学園女子大学）
3. 様々な匂いの感知を可能にする嗅細胞の多様性創出の分子基盤
廣田 順二（東京科学大学）
4. 総合討論

座長： 横井 伯英（日本動物遺伝育種学会 会長）
竹嶋 伸之輔（第 26 回大会 大会長）

シンポジウム 匂いと生命システム

多様な嗅覚行動をつかさどる分子・細胞・回路メカニズム

吉原良浩 理化学研究所 脳神経科学研究センター



【要旨】

嗅覚は、餌を探し出す、交配相手を見つける、親子・仲間を識別する、危険から逃避するなど、すべての生物において個体の生存や種の保存に直結する重要な化学感覚である。外界に存在する多種多様な匂い分子が嗅細胞で受容され、その情報が嗅球さらには高次嗅覚中枢へと伝達・処理されて、嗅覚イメージの形成、快・不快の情動創出、特異的な行動の発現、さらには匂い記憶の成立へと至る。これまでに私たちはゼブラフィッシュを用いて、餌の匂いへの誘引行動、性フェロモンによって誘起される求愛行動、警報フェロモンが惹起する忌避行動、匂いと報酬の連合記憶を司る嗅覚神経機能素子の同定と神経回路メカニズムの解明へ向けての研究を行ってきた。

本講演では、まずゼブラフィッシュ嗅覚系の神経回路基盤を概説し、次に策餌行動・性行動・危険回避行動の嗅覚メカニズムについて紹介する。特に傷ついた魚が仲間の魚に危険を知らせる警報フェロモンとして機能する2つの新規物質の発見を中心に解説する。

【略歴】

1984 年 京都大学薬学部卒業
1989 年 京都大学大学院薬学研究科博士課程修了（薬学博士）
1989-1991 年 大阪バイオサイエンス研究所 神経科学部門 特別研究員
1992-1998 年 大阪医科大学 医化学教室 助手・講師・助教授
1998-2018 年 理化学研究所 脳科学総合研究センター チームリーダー
2004 年 - 現在 長岡技術科学大学 生物機能工学課程 客員教授
2018 年 - 現在 理化学研究所 脳神経科学研究センター チームディレクター
2020 年 - 現在 理化学研究所 脳神経科学研究センター 副センター長
2021-2023 年 日本味と匂学会 会長

シンポジウム 匂いと生命システム

匂いがつくる脳と身体のリズム ～脳機能画像と活動量から見た香りの作用～

小長井ちづる 十文字学園女子大学



【要旨】

ある香りを嗅いだときに、気分が落ち着いたり昔の記憶が呼び起こされるといった経験は誰にでもある。匂いの刺激は外界の化学的シグナルとして大脳辺縁系に直接伝わり、感情や記憶にかかわる部位に作用して、情動を変化させたり記憶をよみがえらせる。さらに、嗅覚刺激は脳のはたらきを安定させたり活発にさせることで、自律神経を通じて心身の機能を調節する。すなわち、匂いは生体リズムや睡眠など生命システムの恒常性維持にも深く関わっていると考えられる。

脳のはたらきを観察する方法は、主に脳の神経活動を直接観察する方法（脳波（EEG）や脳磁図（MEG）など）と、神経活動に伴う血液動態の変化を観察する方法（ポジトロン断層撮影法（PET）、単一光子放射断層撮影（SPECT）、機能的磁気共鳴画像法（fMRI）、近赤外線分光法（NIRS）など）に大別される。これらのうち、脳波や近赤外線分光法は、非侵襲的で測定コストも比較的低いため、健康な者を対象とする健康科学分野の研究において、脳機能の賦活や鎮静の状態をモニターする方法として利用しやすい。

睡眠評価の方法としては、脳波や心電図、筋電図などの生体活動を同時にモニターする終夜睡眠ポリグラフ（PSG）がゴールドスタンダードであるが、近年は簡易的方法として活動量測定（アクチグラフィー）も用いられている。これは、PSG との高い相関が確認されており、簡便かつ長期間にわたり測定可能な、比較的信頼性の高い方法である。

一般に、香りの効果については依然として主観的評価に依る部分が大きいが、われわれの研究グループは、脳機能画像法や活動量測定を用いて匂いが生体活動に与える影響を客観的に検討してきた。今回は、主にこれらの方法を活用して得られた結果を紹介し、匂い刺激が脳機能の変化と行動リズムの双方に関係し、生命システムのリズム調整に関与している可能性について述べる。

今後は、匂いの感受性や嗜好の個人差を考慮しながら、匂い刺激が生理・行動リズムに及ぼす影響をより詳細に検討し、日常生活の質や健康維持への応用につなげていきたい。

【略歴】

2000 年	日本女子大学 家政学部 食物学科 食物学専攻 卒業
2002 年	日本女子大学大学院 家政学研究科 食物・栄養学専攻 修士課程 修了
2002 年	日本女子大学 家政学部 食物学科 非常勤助手 杏林大学 医学部 精神神経科学教室 実験助手
2013 年	杏林大学 博士（医学）
2014 年	新渡戸文化短期大学 生活学科 食物栄養専攻 准教授
2017 年	十文字学園女子大学 人間生活学部 健康栄養学科 准教授

シンポジウム 匂いと生命システム

様々な匂いの感知を可能にする嗅細胞の多様性創出の分子基盤

廣田 順二 東京科学大学



【要旨】

私たちは、日常的に芳しい香りから嫌な臭いまで様々な匂いに出会い、それらを意識下または無意識下のうちに感じとっている。こうした匂い物質の感知・識別にかかわる感覚が嗅覚である。視覚優位となったヒトでは嗅覚の重要性が認識される機会は多くないが、ほとんどの動物にとって嗅覚は最も重要な感覚として機能する。例えば、食物の探索行動、天敵などの危険からの回避行動、子育て行動など、生命維持や種の保存に関わる行動の多くが嗅覚に依存する。嗅覚を失った動物は、これらの行動をとることができず、自然界では生き残ることも子孫を残すことも難しい。

一般的に匂い分子は、分子量数 100 以下の低分子有機化合物であり、その数は 10 万種類以上と推定されている。この膨大な数の匂い分子を感知し、識別する嗅覚受容体は、ゲノム上最大の遺伝子ファミリーを形成する。その数はマウスにおいて約 1,100 個、実にマウスの全遺伝子の約 5% を占める。視覚優位となったヒトでは、嗅覚受容体遺伝子の多くは機能を失い偽遺伝子化しているが、それでも機能的なヒト嗅覚受容体遺伝子は約 400 個（ヒトの全遺伝子の約 2%）も存在し、ヒトにおいても最大の遺伝子ファミリーであることに変わりはない。では、この巨大な遺伝子ファミリーを形成する嗅覚受容体は、嗅細胞でどのように使われ、多様な匂い分子を感知しているのか？本講演では、遺伝子レベルからみた匂いの感覚の仕組みについて、我々の最近のマウスを用いた研究成果を交えながら紹介する。

【参考文献】Hirota and Mombaerts, PNAS (2004) 101(23), 8751-8755; Hirota et al. Mol Cell Neurosci (2007) 34(4), 679-688; Iwata et al. Nat Commun (2017) 8(1):885; Enomoto et al. Commun Biol (2019) 2 (1):296; Iwata et al. Sci Rep (2021) 11(1):510; Kondo et al. Curr Biol (2025) 35(1) 21-35

【略歴】

1990 年	東京工業大学 工学部 生物工学科 卒業
1992 年	東京工業大大学院 生命理工学研究科 修士課程 修了
1995 年	東京工業大大学院 生命理工学研究科 博士課程 修了 博士（工学）
1995 年	科学技術振興事業団 ERATO 御子柴細胞制御プロジェクト研究員
2000 年	米国ロックフェラー大学 博士研究員（Peter Mombaerts） Human Frontier Science Program, Long-Term Fellow
2005 年	大阪府立大学 理学系研究科 生物科学専攻 助教授
2008 年	東京工業大学 バイオ研究基盤支援総合センター 准教授
2021 年	東京工業大学 生命理工学院 教授
2024 年	東京科学大学 生命理工学院 教授 東京科学大学 副理事・副学長

ランチオンセミナー要旨

牛伝染性リンパ腫対策の新技术に迫る！

提供・共催

株式会社ニッポンジーン

(1) 株式会社ニッポンジーンの会社、製品紹介

大上 光明 (株式会社ニッポンジーン)

(2) 牛伝染性リンパ腫対策の新技术に迫る！

(i) 新規牛伝染性リンパ腫発症予測診断技術の確立とそれが拓く未来

間 陽子 (東京大学大学院農学生命科学研究科)

(ii) 牛伝染性リンパ腫ウイルス定量法 BLV-CoCoMo qPCR 法の新展開

綿貫 園子 (東京大学大学院農学生命科学研究科)

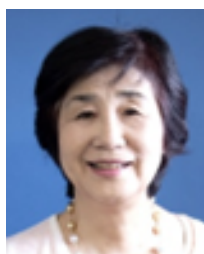
座長 大上 光明 (株式会社ニッポンジーン)

牛伝染性リンパ腫対策の新技术に迫る！

新規牛伝染性リンパ腫発症予測診断技術の確立とそれが拓く未来

間 陽子

東京大学大学院農学生命科学研究科 地球規模感染症制御学講座



【要旨】

牛伝染性リンパ腫 (EBL) は、我が国の牛の届出伝染病の 80%以上を占めている重要疾患である。本疾患は牛伝染性リンパ腫ウイルス (BLV) によって惹起される血液の腫瘍（リンパ腫／白血病）であり、有効な治療法やワクチンが存在しないため、BLV の感染率と発症率は増加の一途をたどっている。最近我々は、リンパ腫発症と体内ウイルス量の上昇に対して感受性と抵抗性主要組織適合性複合体 (BoLA) -DRB3 アレルを発見し、プロウイルス量が低値を示し発症し難い抵抗性アレルを有する“抵抗性牛”と、反対の“感受性牛”の存在とその効果を初めて明らかにした。BLV が蔓延している我が国において、経済的損失を最小限に抑えながら BLV の清浄化を進めていくためには既存の対策に加えて、この“疾患感受性の個体差”という新たな視点から、3つの新しい予防対策を提唱している。①抵抗性牛を BLV 感染牛と陰性牛の間に配置して新規陽転を防ぐ生物学的防壁として活用し、感受性牛を排除する「BLV 清浄化対策」、②発症・プロウイルス量が上昇しない抵抗性種牛を活用する「育種戦略」、そして、③感受性牛のプロウイルス量の低下させる「ワクチン戦略」。

しかしながら、EBL は病原体に加えて、宿主側の遺伝的要因と環境要因が複雑に絡み合って発症する“多因子性疾患”であるため、新技术を駆使して様々な BLV の新規牛伝染性リンパ腫発症関連一塩基置換 (SNP) を同定し、新規ジェノタイピング法を確立し、これらを組み合わせたより精度の高い“総合的発症予測診断基準パネル”を策定し、実用化を進めている。さらに、独創的な人工知能 (AI) の構築に成功し、既存のタイピング情報、年齢や農場情報などを組み合わせることで、より多様な農家に適合した革新的な発症予測診断技術の道を拓いた。

【略歴】

1985 年	北海道大学大学院獣医学研究博士課程修了 獣医学博士（北海道大学）
1985 年	日本学術振興会特別研究員
1986 年	理化学研究所研究員
2001 年	同 分子ウイルス学研究ユニットリーダー
2007 年	同 分子ウイルス学特別研究ユニットリーダー
2021 年	東京大学大学院農学生命科学研究科 特任教授（現在に至る）

牛伝染性リンパ腫対策の新技术に迫る！

牛伝染性リンパ腫ウイルス定量法 BLV-CoCoMo qPCR 法の新展開

綿貫 園子

東京大学大学院農学生命科学研究科 地球規模感染症制御学講座



【要旨】

病態進行やウイルス伝播リスクの指標となる牛伝染性リンパ腫ウイルス (BLV) プロウイルス量 (PVL) を測定可能なリアルタイム定量 PCR(qPCR) 法は、高度に蔓延した BLV 清浄化の実現に向けて重要な技術である。しかし、本手法は煩雑な操作を必要とするため、簡便かつ迅速な検査技術が求められている。これまでに我々は、Coordination of Common Motif (CoCoMo) アルゴリズムにより未知を含めた全ての BLV 変異株を検出可能な縮重プライマーセットと TaqMan MGB プローブを用いて、BLV LTR 領域と宿主因子 BoLA-DRA 遺伝子を別ウェルで測定し、細胞数あたりの PVL を正確に定量可能な BLV-CoCoMo-qPCR 法を開発した。そして近年、検査作業の労力、時間およびコストの削減を狙い、同一のウェルで 2 つの遺伝子を同時に検出可能な BLV-CoCoMo-Dual-qPCR 法 (Dual-CoCoMo 法) の開発に成功し、製品化した。加えて、さらなる検査作業の負担軽減および効率化を図り、BLV 遺伝子検査薬では世界初となる Dual-CoCoMo 法の乾燥試薬を株式会社ニッポンジーンと共同で開発した。これにより、検査作業の負担軽減だけでなく、室温での輸送・保管が可能となることから、世界のあらゆる場所での検査が可能となる。本発表ではこれらの研究成果や Dual-CoCoMo 法における DNA 抽出法の検討について紹介する。

【略歴】

2016 年 3 月	東京農業大学 農学部 畜産学科 卒業
2018 年 3 月	東京大学大学院農学生命科学研究科 農学国際専攻 修士課程修了
2018 ～ 2022 年	株式会社タウンズ 開発部 研究員
2025 年 3 月	東京大学大学院農学生命科学研究科 農学国際専攻 博士課程修了
2023 年～ 2025 年	日本学術振興会 特別研究員 (DC2)
2025 年 4 月～現在	東京大学大学院農学生命科学研究科 特任研究員

ゲノム多様性を手掛かりに安心な未来を

正確で迅速なHLA検査ならジェノダイブファーマ

HLA
Typing

HLA
抗体

KIR
Typing

BLV
牛白血病



GenoDive Pharma
ジェノダイブファーマ株式会社

神奈川県第101号登録衛生検査所／日本骨髄バンク指定検査機関
日本組織適合性学会認定組織適合性検査登録施設 T-2101
日本臓器移植ネットワーク HLA 検査施設 H-071

〒243-0003 神奈川県厚木市寿町3丁目1番1号 ルリエ本厚木9階
TEL.046-240-7513 FAX.046-240-7593
E-mail hla@genodive.co.jp URL <https://www.genodive.co.jp>





ニッポン・ジーン 動物用研究用試薬ブランド
アルファベット
「alphaVET™」シリーズ

動物用研究用試薬

ウシ全血からのDNA抽出キット

CoCoMo™-BLV DNA Pure SPIN



リアルタイムPCRのサンプル調製に最適。100回用。

■ 高純度ゲノムDNA（PCR阻害回避）

- ・ウシ全血からゲノムDNAを抽出可能
（ヘパリン血にも対応）

■ 迅速・簡単操作（スピнкаラムタイプ）

- ・30分で抽出可能
- ・フェノール、クロロホルムなど毒性有機溶媒不使用

■ 低コスト

330 円 / 検体

CoCoMo™-BLV DNA Pure SPIN (100回用)

希望納入価格（税別）**33,000 円**

【関連製品】

- ・牛伝染性リンパ腫ウイルス核酸キット
Dual CoCoMo™-BLV qPCR Mix



- ・陽性/陰性コントロール
BLV PositiveControl/NegativeControl
- ・高濃度プラスミドDNA
BLV PlasmidDNA/DilutionSolution

株式会社ニッポンジーン
動物用研究用試薬 販売窓口
info-dd@nippongene.com

研究の効率化を、最前線の機器で 家田貿易がサポートします。



顕微鏡用カメラ SuperShot

使い勝手がよくコストパフォーマンスが高い 顕微鏡カメラです。
Sony裏面照射CMOSセンサーで画像もきれいです。解像度200万画素
モニター使用するので 複数の人数でグループ観察できます。

顕微鏡メーカー各社のCマウントアダプタの準備もあります。
キャンペーン実施中148,000円～



メカニカルホモジナイザー PRO200

ラボスケールのハンディモデルタイプです。

食品サンプルにも使用可能

小型で500μl～500mlまでの幅の広い処理容量を実現

高トルクモーターでサンプル処理時間を短縮できます。

キャンペーン実施中 150,000円～



プログラムブロックインキュベーター サーモQ

酵素反応に使用可能。温度範囲0℃～100℃

ホットリッド付なので微量のサンプルロスが防げます。

PC接続により温度 時間のプログラムが可能。

リアルタイムに温度状態をモニタリングできます。

キャンペーン実施中 112,000円～

学会展示ブースでも実機をご覧いただけます、上記以外も展示してます。

オートクレーブバックのサンプルも配布してます。



IEDA 家田貿易株式会社

東京本社:TEL.03-3816-2861 FAX.03-3814-5347

札幌営業所:TEL.090-2226-5660 TEL/FAX.011-709-2755

仙台営業所:TEL.022-395-9878 FAX.022-395-9879

大阪営業所:TEL.06-6338-1518 FAX.06-6338-5626

熊本営業所:TEL.096-285-1907 FAX.096-285-1908

沖縄営業所:TEL.090-2210-7721 TEL/FAX.098-859-6271

<http://www.ieda.co.jp/boeki/>

Email:boeki@iedagroup.co.jp

ご注文 問い合わせは
研究をトータルで支える総合商社

家田化学薬品株式会社 埼玉支店
〒352-0011

埼玉県新座市野火止4-19-4

TEL 048-477-3905 FAX 048-478-4816

Email:saitama@ieda-group.co.jp